

第 13 回岩手県スポーツ推進審議会議事録

日時：平成 29 年 11 月 17 日（金）14：00～

場所：岩手県民会館 第 2 会議室

出席者

○スポーツ推進審議会委員

古舘英彦委員 平藤 淳委員 清川義彦委員 照井大道委員 菊池幸子委員
高橋敦子委員 上濱龍也委員 菅 義行委員 早野みさき委員 鈴木美智代委員
土信田有紀委員

○岩手県文化スポーツ部

上田文化スポーツ部長
文化スポーツ企画室 畠山企画課長 臼井主任主査
スポーツ振興課 工藤総括課長 谷藤首席スポーツ振興専門員兼競技スポーツ担当課長
星野生涯スポーツ担当課長 粒来主任主査 中島上席スポーツ振興専門員
森山上席スポーツ振興専門員 神久保主査

○岩手県教育委員会

保健体育課 荒木田総括課長 川村保健体育担当課長 菊池主任指導主事 川村主査

○岩手県政策地域部

政策推進室 小野政策監 登坂主査

（工藤総括課長）

皆様、本日はお集まりいただきましてありがとうございます。進行を務めますスポーツ振興課総括課長の工藤でございます。よろしくお願いいたします。

本日の出席者でございますが、委員 13 名中、過半数 11 名の御出席を頂いております。「岩手県スポーツ推進審議会条例第 4 条第 2 項」の規定により、本審議会が成立いたしますことをご報告申し上げます。なお、本日は、齋藤委員、村田委員は欠席となっております。

また、先にご案内申し上げましたとおり、「審議会等の会議の公開に関する指針」により、本日の会議は、全て公開いたしますので、予めご了承くださいませようお願いいたします。

1 開会

（工藤総括課長）

ただ今より、「第 13 回岩手県スポーツ推進審議会」を開催いたします。

はじめに、文化スポーツ部長から御挨拶を申し上げます。

2 挨拶

（上田文化スポーツ部長）

岩手県スポーツ推進審議会の開会に当たりまして、一言、御挨拶を申し上げます。

まずもって、委員の皆様には、お忙しい中、本審議会に御出席をいただき、心から御礼を申し上げます。

さて、今年の第 72 回国民体育大会「ながの銀嶺（ぎんれい）国体」、「笑顔（えがお）つなぐ えひ

め国体」では、天皇杯順位第14位を獲得することができ、また、「笑顔(えがお)つなぐ えひめ大会」では、多くの県新記録がでるなど、本県選手が存分に力を発揮した大会でした。

また、ラグビーワールドカップ2019では、先ごろ各会場の試合日程が発表され、釜石で2試合が開催されることとなり、東京2020オリンピック・パラリンピックでは、「復興ありがとうホストタウン」に県内6市村が応募するなど、それぞれの大会に向けた様々な取組が進められています。

さらに、先月には、県や市町村・関係団体が一体となり、オール岩手でスポーツイベントや合宿の誘致等に取り組む「いわてスポーツコミッション」を設立したところであり、今後、スポーツを通じた地域活性化を推進することとしています。

このような取組は、昨年開催した希望郷いわて国体・希望郷いわて大会を通じて得られた貴重なレガシーが継承されている成果であり、今後、さらに次の世代につなげていくことが大切だと考えております。

本日は、スポーツ推進計画の策定について、御説明申し上げ、策定の基本的方向について、本審議会に諮問させていただきたく予定としておりますので、委員の皆様には、本県スポーツの推進に関して、幅広い見地から御意見や御助言をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

結びに、今後とも、それぞれのお立場から、本県のスポーツの振興が一層図られるよう、皆様からの御支援をお願い申し上げます、開会に当たっての御挨拶といたします。

(工藤総括課長)

次に、議事に入りますが、これより先の進行につきましては、平藤会長にお願いいたします。

3 議事

(1) 岩手県スポーツ推進計画(仮称)の策定について

(平藤会長)

それでは早速、次第3の「議事」に入ります。

議事の進め方について、(1)の「岩手県スポーツ推進計画(仮称)の策定について」の事務局からの説明と、(2)の「諮問」を続けて行いまして、その後、各委員からの質疑を行います。

では、議事(1)の「岩手県スポーツ推進計画(仮称)の策定について」、事務局より説明をお願いします。

(星野担当課長)

それでは、お手元の資料に基づき、御説明申し上げます。

※以下、資料1-1、資料1-2、資料1-3、資料1-4、資料2-1、資料2-2を一括説明

(2) 諮問

(平藤会長)

次に、議事(2)の「諮問」に移らせていただきます。県から当審議会への諮問ということで、この部分については、事務局の方で進行をお願いいたします。

(工藤総括課長)

部長から諮問書の提出がございます。

(上田部長)

岩手県スポーツ推進審議会 会長 平藤淳 様 岩手県知事 達増拓也
岩手県スポーツ推進計画（仮称）の基本的方向について（諮問）

このことについて、国において、第2期スポーツ基本計画が策定されたことから、本県における地方スポーツ推進計画を見直し、その内容の明確化を図るため、岩手県スポーツ推進計画（仮称）を策定したいと考えますので、その基本的方向について、貴審議会の意見を求めます。

どうぞ、よろしくお願い致します。

(工藤総括課長)

諮問は、以上でございます。では、続けてお願い致します。

(平藤会長)

ただいま「岩手県スポーツ推進計画（仮称）の基本的方向について」を諮問されましたが、さきほど（1）で事務局からの説明された内容を含めまして、各委員の皆様から質問等がありましたら御発言をお願いしたいと思います。ここの意見を踏まえてということになりますので、委員の皆様のご所属する組織のお立場、それを離れての個人的なお立場ということで忌憚のないご意見を現段階で頂戴しておけば進めやすくなると考えておりますので、どうぞよろしくお願い致します。膨大な資料で戸惑うところもあるとは思いますが、何回か方向性を見ていく機会がありますので、今日のところは現段階の質問・ご意見を頂ければと思います。市町村のお立場ということで古舘委員、いかがでしょうか。

(古舘委員)

国の第2期スポーツ基本計画については見ておりましたので、これまで我々が考えていたスポーツ社会の実現について、そういった方面に向けた内容だという事で、実際実現できれば素晴らしいと思っていました。女性のスポーツ、障がい者スポーツももちろん入っておりますし、国際貢献、あるいは地域社会の活性化といった内容も入っているという事で、網羅的ではありますけれども、今までの県のスポーツ振興計画を比べた場合には、かなりランクの上がる、レベルの上だった計画だと思いました。具体的にどのような内容がこれから生まれるのか、期待しているところです。

(平藤会長)

ありがとうございました。様々なお立場からということになりますけれども、積極的なご発言をお願い致します。皆様から意見を頂きたいということで、今日はお集まり頂いておりますので、よろしくお願い致します。学校体育団体はいかがでしょう。

(清川委員)

全ての年代を通して県民がスポーツに参画するという、新しい形を問われているかと思えます。その中でそれぞれの世代に応じてやるべきこと、成すべきこと、特に私たち高校体育連盟では、競技力向上やその前後につながる世代を支えながら自ら生涯に渡ってスポーツに親しむという系統だった体制作りが必要だと思っています。ぶつ切りでそれぞれの競技力を上げたり、参画する人を増やしたりという事ではなく、テーマは長い間スポーツに関わるという体制作りを強調され

ているかと思しますので、具体的な推進にあたっていただければと思っています。

(平藤会長)

ありがとうございます。では、その前段階の中学校はいかがですか。

(照井委員)

人がスポーツを通して豊かな生活を送っていく、それは実際にスポーツをするだけではなく見る楽しみや支える楽しみというのは、本当にスポーツ推進計画の大事なところであり、そういう社会になっていければいいなど、計画を見させてもらっているところです。色々な会議や研修の場でも、「する・見る・支える」といったこれからの社会になっていくための中学校の子供たちを育てていきたいと思います、私も話をする機会が増えているところです。具体的には中体連という立場で言うと、学校体育の方では運動・部活動の方で、国の総合的なガイドラインの策定が計画に盛り込まれているようです。今年度中にそのガイドライン等もお示し頂くということのようなので、そういったものも参考にしながら中体連・学校体育で推進できることを進めていければと思っています。

(平藤会長)

ありがとうございます。小学校の方で、先日文部科学大臣に表彰されたり、優秀賞・優良賞ということで授業実践が高く評価されたりしているのですが、スポ少とかの絡みもあるかと思いますが、何かお願いします。

(高橋委員)

小学校の教員も運動習慣の確保や体力の向上など、長い間頑張ってきて少しずつ成果が出てきているのかなと思っています。ここに掲げられているように、昭和60年ごろの水準までにということで具体的に目標値も出されていたので、そこに向かって引き続き頑張っていきたいと思います。一つ、遊びとかも体力の向上につながっていくかと思いますが、最近学校では遊具が耐用年数を迎えて撤去され、そのままになってしまい、遊具がない学校が増えてきたと感じています。遊びも体力づくりになっていくと考え、遊具なども壊した分、新しいものが入ったら嬉しいなと思っています。

(平藤会長)

ありがとうございました。古館先生、これについては何か傾向にあるとかあるのでしょうか。

(古館委員)

ほとんどの学校で遊具の耐用年数を超える時期に来ているものが多いのだと思います。それを一つ換えるにも何十万とかかります。市町村はその辺を理解して頑張らなければならないのだらうと思っています。うちもなるべくそういう風にしていきますし、障がいのある子供たちがなるべく支援学校ではなく普通学級にくる傾向が強いので、その子供たちも遊べる遊具を作ってくれという要望があったりして、それに応えていくということも一つの学校で行ったところです。需要はあると思っていますし、大事な事だと思っています。

(平藤会長)

ありがとうございます。では、スポーツ医・科学の面からも委員の先生たちをお願いをしました、初めに医学の方でご意見を頂ければと思います。菅先生お願いします。

(菅委員)

県体協のスポーツ医・科学委員長を今年度から拝命しており、そういった立場から述べさせていただきます。健康スポーツ委員会とありますが、実際活動をしているということがなかったの、これからは何かしなくければならないということで、実際計画を見ると色々と活躍できる場があるのではないかと考えています。特に医療面では、健康寿命というものを一番我々が目指しており、運動器が健康であることが大切である、ということのをこれからの健康寿命を高めていくために大切なと感じています。昨年、学校保健の運動保健師を通じ、皆様に運動器のことを理解してもらいました。小さい子は家庭などで関わって運動器とはこういうことだよ、と啓発や注意してもらいながら競技力を高めていきたいと考えています。スポーツ医・科学委員長としては競技レベルのことも考えながら、岩手からオリンピック選手を出したいと思っています。もう一つ、ロコモや介護保険に関わる、生涯に関わる立場でも進めていかなければならないだろうと思います。指針にも健康寿命の延伸について書いてあり、素晴らしいなと思っておりました。

また、障がい者の大会をする人から、障がいが高く動けない人にはどのようにしていかなければならないのかというお話がありました。実際そこに関わっているドクターが少なく、現実的にもそういう方がいないと。会議のときに、興味のあるドクターの方がいて声をかけてみたら「是非参加して、資格も取ってみたい。」と言ってくれ、そういった広がりも作っていかなければならないのだろうと感じています。我々ドクター同士も一歩踏み出せない所がありますので、皆様の意見を聞きながら、健康寿命を高めながら楽しく将来まで生きがいを感じられる人生を歩めればなと思っています。本当に素晴らしく感じておりますので、これから色々と検討しながら、しっかりとスポーツ医・科学委員会でも考えていきたいと思っていますのでよろしく願いいたします。

(平藤会長)

ありがとうございます。科学や大学という面で上濱先生お願いします。

(上濱委員)

スポーツ医・科学というより、大学という立場で県のお仕事も色々とお手伝いさせていただいていますが、今小学生の体力づくり、遊具というところのお話がありましたけれども、県内の総合型のスポーツクラブにおきましてもポツポツと活動は始めているのですが、まだ総合型までいききれていなかったり、活動の場が少なかったりという所で、小学校の中で子供たちの遊びの指導というつながりを今やりながら、子供たちの体力向上を目指したりという事をやっております。そういったところの経験を踏まえて考えますと、国の方のスポーツ推進計画に満遍なくあらゆるところでより高いレベルでという話がいっぱい載っているなというところですが、岩手県内のこれまでの計画の実行に伴って様々な活動とか事業とか、そういったものが少しずつ進んできてはいるのだと思うのですが、それらを統合していく段階に入ってきたのかなということが最近感じてきたことです。ただ、岩手県はとても広い土地柄ですので、国のものを作るにもスペースとい

う問題も議論されているように、これだけ広大な土地になりますと、子供たちあるいは若い人、あるいは高齢者、様々な人たちが安全に活動できる場というものの確保というのも重要になってくるでしょうし、その場をいかに生かすかということがソフトウェアだと思います。どうしても予算的なものもあると思いますので、ソフトウェア、プログラムというところに目が行きがちだとは思いますが、やはりどんなにいいプログラムもハードウェアが無ければ使えないプログラムになってしまうので、バランスも含めて効果的に今あるものも更に生かせるようなものにできるように、できるだけそこに知恵を絞れるように協力していければと思いますのでよろしくお願い致します。

(平藤会長)

ありがとうございました。総合型の話が少し出たのですが、総合型の話は概要版に一行しか書いていなくて、障がい者の参加促進の部分しか無くなってしまっているのですが、鈴木委員は何かご意見はないでしょうか。

(鈴木委員)

総合型のスポーツクラブの代表として参加させていただいていますが、先日東北ブロックのクラブのサミットがありまして、その中で大きく話が出たのはスポーツクラブの方が今後地域課題や活性化に向けてどんどん役割を果たしていくべきではないかという方向がすごく感じられました。スポーツを媒体として少子高齢化や、地域の活性化というものが主な内容ではあったのですが、やはりスポーツを通しての広域的な役割が、先日立ち上げられたスポーツコミッションもそうですが、スポーツが期待されるものやスポーツの効果というものがどんどん広域、広がってきている状態のかなというのを感じました。先ほどもお話がありましたが、その中で協働というキーワード、統合であったり、協力であったり、また整理も必要なのかなと思っています。財源的な面でも、人の面でも、ある程度限られた資源を効率的に動かしていくかということが知恵の出どころかなと思いますし、それがトータル的にここに書いてあるスポーツの価値だと思います。今まで無料でも来ないものを、そこに受益者負担や価値を見出していくということがこれからのスポーツの世界であると思うので、そこを意識して活動していきたいと思っています。そして、スポーツの持つ広がりを感じている今、私の中でスポーツの定義を確かめたいと思っています。私は元々体育大出身なのですが、体育とスポーツは違うと思っています。この場をお借りして、岩手県が「スポーツは何だ？」と聞かれた際に一言でスポーツとはこういうものです、というところを今一度確認させていただければと思います。

(平藤会長)

スポーツの定義ということですが、今のところ一言で言うとどうでしょうか。

(上田文化スポーツ部長)

すごく鋭い御質問を頂戴いたしました。じゃあこれは何だろうと突き詰めていくと、あまり考えたことが無かったような気がします。そして、先におっしゃられた「体育とスポーツは違うよね」というところも、こういった仕事をしてそういった所も意識するようになりました。私が学生時代にスポーツをしてきた頃には、いずれ体を動かして「楽しいな」と思う事はスポーツだという感覚でいたと思います。でも、それでは足りないのだろうなという気がします。国の基本

計画の中にも出てきましたが、「スポーツが持つ力」というのは多岐に渡ってそれを生かしていくことが大事だという事だと思います。例えば、地域活性化にスポーツが、スポーツの持つ力がどんどん発揮されていくことが必要だろうと。こういったこともあるかと思います。私個人的には今言ったことが、一言で言うと、というところかと思いましたが、もしかするともっともっと広がりがある、範囲の広いものも包含したものじゃないかという気がしています。そういったところも踏まえて、今度新しい計画を作らせていただきますので、是非そういったお考えを皆さんからお聞きして盛り込んでいって、どうやっていくかというのを皆さんと共有していきたいという風に思います。申し訳ありません、答えになっていないかもしれません。

(鈴木委員)

ありがとうございます。実は私の中でも整理している途中で、先日スポーツ庁の方とお話する機会があって同じ質問をしました。そうしたら、スポーツ庁の中では「目的を持って体を動かすというものは全部スポーツだと捉えています」という答えでした。目的を持った身体運動という捉え方をして計画を立てていますというお話だったので、私の中ではすっきりしたなというのがあって、岩手県ではどのような思いでスポーツを捉えているのかお聞きしました。私は「体育」ばかりで過ごしてきたので、スポーツの捉え方が広範囲になってきたので、ここで誰かに「スポーツって何？」と聞かれたときに自分が答えられないと嫌だなということで今試行錯誤しているところです。

(平藤会長)

今の件、よろしかったでしょうか。基本的にはスポーツ基本法で定義しているのですが、これもよくわからない。スポーツ基本計画の資料2-2の3ページの中ほどに「スポーツは…」と書いてあるのですが、これもよくわからないですね。一生懸命書いてくれてはいますが、読むと原動機が付いたものもスポーツとして扱えというような形になっているので、ますますわからないですね。車に乗るのもスポーツというような感じになっているので。広くなったのか狭くなったのか。話をしながら進めていきたいと思います。NPOなどの立場ということで、土信田さんは商業施設ということで子供たちを動かしているという形ですが、そこら辺の観点から何かありますか。

(土信田委員)

私は今、民間の企業で行われている体育の指導に携わっているほか、スポーツクラブでの個人へのフィットネス指導を行っていきまして、今皆様の意見をなるほどと思いながら聞いておりました。遊びの場についてですが、散歩していると公園に黄色いテープで「キケン」と書いているのをよく見かけ、なぜこんなにいいものが使われないのかと、子どもがすごく「ここに登ってみたい、ここから飛び降りてみたい」という意欲を、危ないとか親が思うこと以外のことを子どもがしたいと思う事をさせてあげられる環境を作って整えてあげるのが一番だと思っていました。幼児期を担当しているのもっとその環境が整い、昔自分がフェンスを登って男の子と混ざって飛び降りてみたり、そういうことをしていた自分を思い出したときに、今の子どもたちはそういう遊びをしない、できないということが運動不足だったりとか運動機能の低下などにもつながっているのかなとすごく感じておりました。ソフトもちろん大切ですが、ハード面からきちんと整えていただくことで、自然と子どもたちが「ここで遊ぼう、ここに行ってみよう」という気持ち

になる事や、「この公園ではボールを使用できません」というような注意書きの看板などを見かけたりすると、なぜ公園なのにボールを使ってはいけないのかなとか、じゃあどこでどう何を使って遊んだらいいのかは子どもたちの今の発想の中からは難しく、出てこないのかなというのは感じております。私自身レッスンの中で鬼遊びをよくしたりするのですが、逃げる・追うというただそれだけの楽しさの中で走り回っています。幼児期の持久力は成長段階、発達段階として未熟ですが、それだけでも遊びを通じて基礎運動能力の向上させることは可能なのかと感じておりました。先ほども出てきました、目的を持った身体運動がスポーツというような捉え方ということで、最近会社の研修会で前回の東京オリンピック以前は目的を持たない遊びがあって、ただただ走る、野山を駆け回るとというのがオリンピックを通してスポーツという競技を目の当たりにして、「じゃあ野球をしよう」というような活動に変わってきたのではないのかなというお話を聞いて、目的を持たないものは基礎的な人間活動として大事なところなのかなと感じました。幼少期からの運動の大切さを感じましたので、運動しやすい環境に更に整えていただきたいです。スポーツといえば競技性のものをイメージしてしまう自分もいまして、すごくいい質問だと思い聞いていました。高齢者に「スポーツしましょう」と言っても「え、スポーツ？」と一歩身を引くような感じに捉えられることもあるかと思うので、「健康」とかその年代に応じた理解の仕方、身体運動の理解の仕方を提示していただけるともっと参加しやすいのかなと感じました。

(平藤会長)

では、スポーツの関わり方ということで、スポーツ推進委員などとして市町村と一緒に活躍いただいている立場として、菊池委員からお願いします。

(菊池委員)

皆さんがお話しているのは、国とか県とか大きい話なのですが、私はスポーツ推進委員の立場で、健康長寿社会ということで高齢者、中でもグラウンドゴルフ、ゲートボール、卓球とか取り組んでいる方はいいのですが、歩くのもひどい、車も運転できない、けど運動はしたいという方達の、いきがいセンターとかNPOさんとかで、水の中を歩くという教室などを行っています。ですが、中々予算が出ないので来年の3月で辞めますとか、色々そういった問題が出てきています。私は続けたいので、どこかでやろうかと思うのですが、車も運転できない、歩く事もできないとなると送り迎えが必要で、送り迎えをつけると誰かを頼まなきゃいけないとか、一人ではできないからどうしようかなということで、それに悩んでいます。予算が取れなくて、その建物もやめるということになると、じゃあ介護認定を取らない、ただ歩くのは辛いけど運動はしたいという人はどうしたらいいかということで、運動をする人たちはいいのですが、したいけど行けないという人たちの事で悩んでいます。私が言っているのは畳体操の事なのですが、靴を履かなくても畳の上で運動ができるという体操を今やっているのですが、来年の3月でなくなります。それをどのように続けていくかということで、今考えているところで、本当にピンピンコロッと逝ってほしいという気持ち思っていてやっているの、健康長寿社会という事の実現に今それで悩んでいるところです。皆さんの話は大きい話なのですが、私は下の方のところの話で悩んでいまして、どうかしようと思っているところです。もし何か意見がありましたら、よろしくお願いします。

(平藤会長)

ありがとうございました。国の方でもスポーツを通じた健康増進と項目を立てて出てきていま

すので、こういうところの観点もよろしくお願いします。最後になりますが、トップアスリートを経験した立場ということで、2019 ラグビーワールドカップには間に合いませんが、2020 東京オリパラ、2021 ワールドゲームズ、その次のオリンピック辺りまでこの計画が重なってくると思います。そういうところでご意見があれば。

(早野委員)

競技スポーツという部分になってしまうかと思いますが、岩手からもオリンピックに出る選手がちらほら出てきたり、これからは岩手からオリンピック選手が出る事が当たり前の時代になるのではないかな、そうなって欲しいなと思いつながっています。その時に、岩手の課題がしっかりしているといいのかなと。そうすると中央に出ていった選手が、岩手に拠点を置くというのはすごく夢のような話かもしれないですが、戻ってきて地元の子どもたちに夢を与えられるという事につながるのかなと思っています。私はスポーツが持つ力が大きいのは、郷土愛を育てる部分が大きいかなと思います。私は、郷土愛を受けて岩手にずっと拠点を置いてオリンピックに出場して、郷土愛を育ててもらったので岩手に戻ってきたという形なので、岩手はすごく田舎だとは思いますが、その分人と人とのつながりが濃いところがいいところだと思います。なので、そういうところを大事にしていけるようにしたいです。競技を応援するおじいちゃん、おばあちゃんがグラウンドに行くためにシルバーカーを押して観に来ていて、ホッケーのグラウンドに孫とかはいないけれどいつも試合を見に来るおじいちゃん、おばあちゃんがあります。すごいないつも思っています。犬の散歩のついでに見に来たりしているのは、素敵な光景なんだなと。ひとつ印象に残っているのが、オーストラリアに遠征に行ったときに、夕方から白髪のおじいちゃんがスティックを担いでどんどん集まってくる様子でした。普通の11人制のグラウンドで60代、70代のおじいちゃんがホッケーをしていました。大丈夫かなと思って見ていましたが、すごく楽しそうにホッケーをしていて、これが生涯スポーツの素晴らしいところだと感じました。おじいちゃん、おばあちゃん達、それまで試合をしていた若い人たちとの交流があって、同じクラブハウスで一緒に話をして。スポーツって素晴らしいなと思っていて、これもスポーツ基本計画の社会を変える、人生を変えるというところにつながるのではないかなと。こういうところは実は岩手はやりやすいのではないかなと思って見ていました。先ほど、スポーツをやりたいけどやれない環境にあるおじいちゃん、おばあちゃんたちがいるということを知りましたが、大変だとは思いますがそれならこちらから出向いたらいいのではないかなとか、合う時間、顔を合わせる時間を作ったりとかそういうこともできるのではないかなと、ざっくりですが思っていました。スポーツの競技力を上げることも大事ですが、地域を活性化させるという意味でもスポーツの力、郷土愛をうまく使えていければいいのかなと思います。

(平藤会長)

ありがとうございました。一通りお話を伺いましたが、岩手らしいものがあるのではないかと、ということや、あるいはメリハリをつけたほうがいいのかということや、今優先するべきはこれではないか、というようなことはありますか。それぞれの立場では、全てそれぞれの立場のところがか切かとは思いますが、何かあればお伺いいたします。

(清川委員)

岩手らしさということではないかもしれませんが、全国的に運動離れとか二極化とかが強ま

の中で、本県は運動部活動加入率がずっと全国のトップを維持しています。これは岩手らしさと言えるかどうかというところなのですが、岩手の特徴の一つということで、こういったところは運動部活動が支えるものというのは大きいかなと思います。その後のことを考えたり、ライフスタイルをスポーツ中心に考えるきっかけになったり、あるいは競技力を向上したりというのは未だに上が大きいのは事実なので、今回の計画をどの程度どのように落とし込むかが本当に大事だと思います。一方で、加入率は高いですが生徒数減少、学級減というのは予定されていて歯止めが利かない状況で、ここから高体連の話から外れるかもしれませんが、学校それぞれでは部員数の減少が深刻な問題で、部の統廃合をそれぞれ進めていたり工夫をしています。各学校の取組だけでは限界が来ているということで、部活動のあり方は国の計画にもありますが、本県でも盛り込んでいくべき事項だと思いますし、テーマは地域との協働ということで既に計画がなされているかと思いますが、地域のスポーツクラブとの連携や外部指導者をどうするかというあたりは計画にきちっと盛り込んでいくべきだと思います。もう一つはそれぞれの学校で統廃合を考えて、部員数の確保ということじゃなくて、近隣の学校、地域の学校同士が連携した部の統廃合ですとか、摺り合わせを考えていくと。県全体で方向性を見出していただいて、ある程度各学校間の連携というのに結びついて、子どもたちが活動しやすい場を提供してもらえればと思います。

(平藤会長)

それでは、事務局から説明のありました考え方を基本として、また、今お出しいただいた委員のご意見も踏まえて、今後の審議を進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

(3) その他

(平藤会長)

次に、議事の(3)の「その他」ですが、これまでの議事について何かご意見等がある委員がいらっしゃいましたら、ご発言をお願いします。

(特になし)

事務局からは特にないと承っていますので、それでは進行を事務局にお返しします。

4 その他

(1) 次期総合計画の策定について

(工藤総括課長)

平藤会長、ありがとうございました。

次に、4「その他」ですが、(1)の「次期総合計画の策定について」、担当しております政策地域部政策推進室から、御説明申し上げます。

(政策地域部 小野政策監)

それでは、お手元の資料に基づき、御説明申し上げます。

※以下、資料3-1、別紙1、別紙2、資料3-2、資料3-3を説明

(工藤総括課長)

ただいま(1)について説明がりましたが、これに関して、委員の皆様から質問等ありましたら御発言をお願いします。先ほどのスポーツ推進計画でもご説明したスケジュールとほぼパラ

レルするような形で、連携しながら進めていきたいと考えているところでございます。スポーツ推進審議会の方も、計画が出来上がるまで5回、6回と会議を開いて参りますけれども、必要に応じてこちらの次期総合政策の情報も提供させていただく事があるかと思っておりますので、現段階でスポーツ推進審議会のメンバーとして次期総合計画がよくわからないなという辺りがあれば。

(特になし)

(2) その他

(工藤総括課長)

最後に、4その他の(2)の「その他」について、これまでの議事について何かご意見等がある委員がいらっしゃいましたら、ご発言をお願いします。

(特になし)

(工藤総括課長)

委員の皆様、長時間にわたるご審議大変ありがとうございました。それでは、閉会にあたりまして、上田部長より御礼を申し上げます。

(上田部長)

長時間にわたりまして様々のご意見を頂戴いたしまして、誠にありがとうございます。お忙しい中、大変貴重なご意見を頂戴したと思っております。今回、新しい計画を作りたいという事で、審議会を開催させていただきました。確かに、国の基本計画が変わったという事もあります。参酌する、これを標準にして作っていきますが、ただ国と岩手は違うと思います。岩手は岩手であって、岩手の県民が何を望んでいるかを考えながら計画作りを進めていきたいと思っております。そういった中で今日も沢山顶きましたけれども、様々なお立場から委員の皆様から意見を頂きまして、そういったものを十分に参考にさせていただきながら、計画作りを進めていきたいと思っております。長丁場になりましたがこれからもよろしくお願い致します。本日はどうもありがとうございました。

(工藤総括課長)

それでは、次回の審議会は、平成30年1月24日10時から予定しておりますので、よろしくお願い致します。

5 閉会

(工藤総括課長)

以上をもちまして、本日の審議会を終了させていただきます。

ありがとうございました。